



第2回 『保健・医療・福祉系職員スキルアップ研修』

**『地域が求めるリハビリテーション』
専門職に求められる能力とチームアプローチ**

総合司会…大沼 由香 氏 (弘前医療福祉大学准教授)

【第一部】 基調講演 午後1時～

- ◆金丸 晶子 氏 (東京都健康長寿医療センターリハビリテーション科部長)
『急性期リハビリテーションの現状と課題』
- ◆村岡 正朗 氏 (村岡外科クリニック院長)
『気仙沼の在宅医療とリハビリ専門職への期待』
- ◆阿部 勉 氏 (リハビリ推進センター株式会社代表取締役)
『活動と参加に向けたリハビリ専門職の視点と役割』

◆山崎 律子 氏 (余暇問題研究所代表取締役・主席研究員)
リつこ式高齢者レクササイズ

【第二部】 パネルディスカッション 午後3時～

『地域が求めるリハビリテーション』

『専門職に求められる能力とチームアプローチ』

- パネリスト…金丸 晶子 氏
- 村岡 正朗 氏
- 阿部 勉 氏

7月25日 (土) 午後0:50～ (開場午後0時30分)

会場：ワンテン庁舎2F大ホール

参加申し込みは、
7月23日 (木)
まで

問い合わせ先
気仙沼市保健福祉部高齢介護課 柴田
0226-22-6600 (内402、403)

- 主催 「気仙沼支援 医療・福祉関係5団体」
- 共催 気仙沼市
- 気仙沼市医師会
- 気仙沼地区地域医療委員会
- 気仙沼歯科医師会
- 気仙沼市社会福祉協会
- 気仙沼介護サービス法人連絡協議会

➤大沼由香氏（弘前医療福祉大学准教授）

2005年、東北福祉大学大学院社会福祉学研究科修了（社会福祉学修士）。弘前大学大学院医学研究科在学中。資格は、看護師、助産師、介護福祉士、社会福祉士、主任介護支援専門員。

宮城県内で総合病院勤務後、介護福祉士養成校教員、社会福祉協議会（基幹型在宅介護支援センター、地域包括支援センター勤務）、2010年4月より弘前医療福祉大学保健学部講師、2013年4月より現職。

所属学会等は、日本在宅ケア学会、日本看護科学会、日本老年社会科学会、日本公衆衛生学会、日本老年行動科学会、日本ケアマネジメント学会、日本生活自立支援学会、日本認知症ケア学会。

研究テーマは、地域包括ケア、ケアマネジメント等。

➤金丸晶子氏（東京都健康長寿医療センター リハビリテーション科部長 リハビリテーション科専門医）

地方独立行政法人東京都健康長寿医療センターリハビリテーション科部長。昭和61年京都大学医学部卒業。昭和61年6月東京都老人医療センター内科研修医、平成2年1月東京都老人医療センター循環器科医員、平成3年10月～平成5年3月米国ボストン大学医学部心血管研究所研究員、平成5年4月東京都老人医療センターリハビリテーション科医員、平成13年同医長、平成24年より現職。日本リハビリテーション医学会認定臨床医、リハビリテーション科専門医、日本リハビリテーション医学会指導責任者。所属学会は、日本老年医学会（代議員）、日本リハビリテーション医学会、日本嚥下医学会、日本摂食・嚥下リハビリテーション医学会、日本静脈経腸栄養学会、日本循環器学会、日本高血圧学会など

➤村岡正朗氏（村岡外科クリニック院長）

藤田保健衛生大学卒業。藤田保健衛生大学病院研修医。平成9年5月から村岡外科クリニック院長。

気仙沼市でクリニックを開業していたが、震災により自宅とともに全壊となり、気仙沼中学校（ピーク時は約1,500人の避難者）に避難した。即時同校の保健室を借り、保健室に寝泊まりしながら24時間態勢で被災者の医療救護活動に当たった。同校に隣接した別の避難所の診療にも当たり、震災10日目からは往診も再開。また震災前から在宅医療に取り組んでいたことから、避難所以外で生活する高齢者などを支援するため、各地からの支援医師、看護師らとともに「気仙沼巡回療養支援隊（JRS）」を結成し、手腕を発揮。平成24年度の社会貢献者表彰として、気仙沼市医師会に所属する会員5人が「東日本大震災における貢献者表彰」を受賞したが、その中の一人。現在、村岡氏の声かけで2012年に発足した「気仙沼在宅ワーキンググループ」を率いて、在宅療養における各職種の業務の在り方、症例や地域の課題などを検討。それと同時に、ソネット（株）から実証実験依頼があったシステム「在宅ケア多職種連携支援システム」のプロトタイプの評価にも取り組んできた。震災によって気仙沼で生まれた在宅医療の萌芽は、「住民意識の変化」や「医療福祉関係者の連携」、「急性期病院の在宅への信頼」といった形で、村岡氏を中心に徐々に花を咲かせ始めている。

日本外科学会認定医。日本消化器外科学会認定医。日本臨床外科学会所属。日本医師会認定産業医。

➤阿部勉氏（リハビリ推進センター株式会社 代表取締役）

1991年、札幌医科大学衛生短期大学部理学療法学科 卒業。同年、東京都老人医療センターに入職。2001年から2012年まで東京都老人総合研究所客員研究員、2002年、リハビリ推進センター株式会社を設立、代表取締役役に就任。2012年より一般財団法人訪問リハビリテーション振興財団・組織化班チーフとして、福島、岩手、宮城の訪問リハビリテーションの事業所支援を行ってきた。2001年筑波大学大学院修了（リハビリテーション修士）、2012年首都大学東京大学院修了（健康科学博士）、所属学会等は、NPO全国在宅リハビリテーションを考える会（理事）、日本理学療法士協会（職能局業務執行委員）、日本老年医学会、日本体力医学会、日本公衆衛生学会、アジア・スポーツ学会、北里大学非常勤講師、東京都職業訓練校非常勤講師など。

➤山崎律子氏（余暇問題研究所 代表取締役 主席研究員）

東海大学体育学科社会体育学部卒。同大学体育学研究科（大学院）修士課程修了、1984年、（株）余暇問題研究所設立 代表取締役・主席研究員、日本レジャー・レクリエーション学会常任理事、日本老年行動科学会常任理事。全米レクリエーション・公園協会（NRPA）会員。ワールド・レジャー協会（WL）終身会員、東海大学体育学部同窓会 副会長。主な著書：現代人とレジャー・レクリエーション（編著） 不味堂出版、その場にぴったりの楽しいゲーム 100（編著） 全国学校給食協会、アメリカの公園・レクリエーション行政（編著） 不味堂出版、心の体もすっきり体操シリーズ（編著） ミネルヴァ書房、シニアのレクリエーション活動—支援のヒント—シリーズを編著、DVD りつこ式高齢者レクササイズ メディカ出版、認知症の人のレクリエーション 中央法規出版 ほか